

令和6年度第2回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和6年8月23日（金）10：00～11：30

2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館3階 第4学習室

3 出席者

（1）委員4名

影山一男委員（部会長）、細川祥委員、阿部久美子委員、高橋和也委員

（2）説明者（施策関係部、施策主管課）2名

農林部：菊池正彦部長

農政課：藤田康悦課長

（3）事務局（施策及び事務事業担当課）

秘書政策課企画調整係：澤田宇利主査、阿部ゆうみ主査

財政課経営財務係：佐藤亜美主事

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「農業生産の支援」について評価を行った。

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（2）委員会の評価結果の集約

5 議事録

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（影山一男部会長）「現状と課題」の3つ目の項目で、「作業が同じ時期に重複する状況にあります」とあるが、これは例えば収穫の時期が重なることによって人手が不足するという話であるか。

（藤田農政課長）そのとおりで、農業法人が規模拡大を目指して農地面積を拡大しようとしても、どうしても収穫時期が集中することにより繁忙期と閑散期が生じてしまうという意味で記載している。農業法人で繁忙期のみ依頼する労働者の方がいるが、その人数を増やすことが難しい。

（影山一男部会長）作業が同じ時期に重複することにより、どのような影響があるのかを記載するとより分かりやすいと思う。

また、「前年度評価時の今後の方向性」の3つ目の項目で、「青色申告を実施していることが加入要件」とあるが、農業経営をしているが青色申告をしないというのはどのような場合があるのか教えていただきたい。

(藤田農政課長) 大まかな説明にはなるが、白色申告の方は比較的規模が小さく、ほかにも給与収入があるいわゆる兼業農家といわれる方が多く、一方で青色申告をする農家の方は専業に近い形で農業経営をしており、申告することで控除を受けて収益を確保しているという違いがある。

(阿部久美子委員) いま労働力不足が深刻で、特に農業は若手の労働者が減っていると思うが、花巻では外国人労働者が農業に従事しているケースはあるのか。

(菊池農林部長) 特に集計を取っていないので、こちらで把握していないだけで中にはいらっしゃるかもしれないが、大規模に外国人労働者が従事しているところはないと思う。花巻では冬場に農業生産が低下するため労働者にとって条件が悪く、一年を通して生産が可能な地域に集中するのではないか。

(阿部久美子委員) 今後外国人労働者に労働力を求めるということは市として考えてはいないか。

(藤田農政課長) 今の時点では考えていない。

(高橋和也委員) 現状、農家は儲かるのか。

(藤田農政課長) 例えば、米や麦、大豆などはある程度の面積があれば収益性があるし、国からの交付金もある。また、りんごやブドウ、ピーマンきゅうりトマトなどは、労働力はかかるが面積が小さくても収入が得られる。

(高橋和也委員) 生産コスト低減のためスマート農業を導入するとあるが、スマート農業導入の初期投資分の採算をとることができるのか。持続的な経営は可能なのか。

(藤田農政課長) 大規模な農家や法人であれば国や県のスマート農業導入に係る補助がある。また、国県の補助が受けられない方については、上限はあるが花巻市で支援している。

(細川祥委員) 成果指標が「振興作物の栽培面積」と設定されているが、達成状況の欄を見ると、要するに米価が下がって収益減となるような場合でも振興作物を栽培することによって経営を安定させるということか。

(藤田農政課長) 昭和の時代であればコメを多く作ればよかったが、現代ではコメの消費が減っているため、それまでコメを作っていた場所で代わりに何をするかということで、国は転作作物の栽培を推進している。

(細川祥委員) 「達成状況に関する背景・要因」の分析や方向性について、より詳しく伺いたい。

(菊池農林部長) 米価は需要と供給のバランスの問題があり、そこを計算したうえで国から今年はこの程度の作付面積でという生産目安が示され、それに従って作付

けすることで過剰な供給による米価の下落等が起こらないように調整されている。強制はできないが、私どももその生産目安に沿った作付けをお願いしている。そこで、残りの田んぼをどうするかというときに、振興作物の生産をしていただいて収入を確保するという形で進めている。多くコメを作ったら輸出すればいいのではという話もあるが、輸出した場合と国内販売した場合の利益を比較すると、輸出するメリットがあまりない。

(阿部久美子委員) 「新たに取り組むべき事業」の欄に花巻ブランドについての記載がないが、新しいブランドづくりについて検討する考えはないか。現状では花巻産の作物でコレというものがなく感じる。観光にもつながるようなブランド力のある作物があればいいと思う。

(藤田農政課長) 花巻は他と比べて色々な作物を作っており、柑橘系以外はほぼ生産している状況。逆に言うと確かにコレというものがなく、プラチナポークやホロホロ鳥などはあるが、野菜では際立ったものが特にない。

(阿部久美子委員) ブランド力のある作物の生産を推進していったほしい。

(影山一男部会長) 農業の将来についてどのように考えているのか伺いたい。例えば、法人や大きな農家などに集約していくのか。農業従事者の高齢化もあり、個人の規模の小さな農家は今後どんどん消えていくと思われる。

(菊池農林部長) 米や麦、大豆など面積が大きいほど収益が上がる作物については、個人で経営していくのは難しいので法人や大規模農家に集約していくことになると思う。一方で、例えば園芸については比較的小さな栽培面積であってもある程度収入を得られるということもあるので、作物によってそれぞれ支援の仕方を変えていく必要がある。

(影山一男部会長) スマート農業は導入しやすいところとそうでないところがあると思うが、それについても必要に応じて対応していくということか。

(菊池農林部長) 例えば気象状況を確認できるシステムについては作物の種類に関わらず活用できるということもあり、ケースバイケースである。

(影山一男部会長) 今後の課題として生産コストの削減のため経営分析が必要とあるが、そこについてはいかがか。

(菊池農林部長) 設備投資が過大となっている場合もあると思われるので、効率化は必要と考えている。

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(阿部久美子委員) 「前年度評価時の今後の方向性」の欄と「反映状況」の欄にそれぞれ3つの項目が記載されているが、これは対応関係にあるのか。

(阿部ゆうみ主査) それぞれ対応している。

(阿部久美子委員) いまの記載の仕方だと対応関係が分かりづらい。例えば、①②③やABCなどの番号をつけるとより分かりやすいと思う。

(影山一男部会長) 項目ごとに対応していることは何となく分かるが、より明確な表現にいただいた方が分かりやすい。

前年度のチェック、アクションについては機能している。

また、「反映状況」とその下の欄の「1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組」はワンセットになっていて対応していると考えてよいか。

(阿部ゆうみ主査) 「1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組」は第3期中期プランに記載の内容が載っており「反映状況」と対応しているものではない。

(影山一男部会長) 「反映状況」に記載されている3つの項目のうち、1つ目と3つ目については具体的な成果が数字で記載されているが、2つ目については「導入が進んでいる」という表現のみで具体的なことが記載されていない。具体的な数字を記載した方が分かりやすい。

②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(影山一男部会長) 的確に行われている。

③「施策を構成する事務事業の検証」について

(影山一男部会長) 「新たに取り組むべき事業はないか」では新たなブランド品目の開発を挙げても良いのではないかと、という意見があった。

④「施策の総合的な評価」について

(影山一男部会長) 的確に行われている。

⑤シート記載内容全般について

(影山一男部会長) 「4 施策を構成する事務事業の検証」欄の記述について。「施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか」に事務事業が記載されているが、ただ記載されているだけなので、例えば、「施策への貢献度」の評価(「成果」部分)がCだった事務事業を挙げる」の一文を入れて、事務事業を記載するとわかりやすい。

以上